

# 公益社団法人 日本農芸化学会 2023年度 関東支部例会

報告者: 袴田 航(日本大学 生物資源科学部)

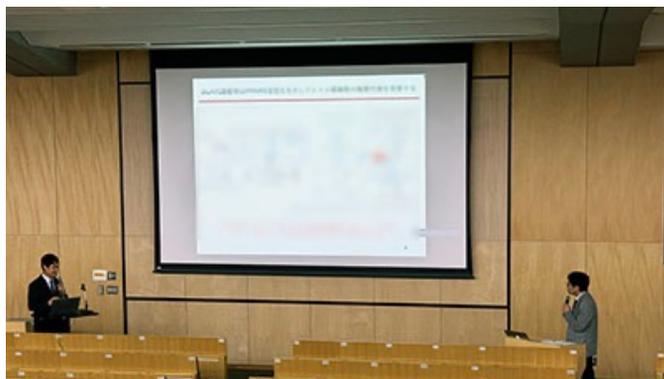
ようやく秋の空気を感じられるようになってきた11月10日(金曜日)に、日本農芸化学会2023年度 関東支部例会を日本大学 生物資源科学部 湘南キャンパス 211 講義室にてハイブリット形式で開催しました。本例会では、2023年度 日本農芸化学会大会奨励賞の受賞者講演を4件(関東支部の受賞者は4名)と同大会トピックス賞の受賞者講演を15件(関東支部の受賞者は18名)行いました。朝から小雨が降り続くあいにくの天候でしたが、現地での対面式の参加者は59名(事前登録者61名)となりました。オンライン参加者約50名(事前登録者67名)とあわせ、109名の方々が例会に参加致しました。

2023年度 広島大会も3年連続でオンライン開催となり、全体の発表数は1194題でした。その中から31題がトピックス賞に選出され、関東支部に関するものは18題となりました。その内訳は、微生物分野が7題、植物分野が3題、動物分野、食品分野、有機・天然物分野がそれぞれ2題、環境・バイオマス分野、生物科学分野がそれぞれ1題でした。ご講演内容は微生物分野が多く、動物から植物、有機化学から酵素学、環境やバイオマス利用まで様々な分野が網羅されていました。このような受賞者講演を一度にまとめて聞くことができるのも、この例会の魅力かと思えます。また、質疑応答も活発に行われ、どの講演も時間一杯まで質問が出ていました。裏面にそれぞれのご講演者とご講演タイトルをまとめました。

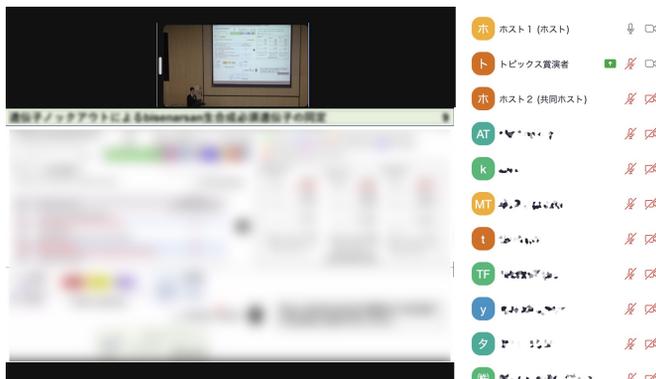
本年度の例会の試みとして、平日(金曜日)開催としました。これまでの例会の多くは土曜日に開催されておりましたが、土曜日の学会行事は参加しにくいとの声が聞かれるようになりました。このような社会環境の変化を反映した平日開催は、例会開催方法に一つの選択肢を示したものであると思います。また、コロナ禍で強いられたオンライン学会等ですが、距離に関係なく参加ができる等の多くのメリットがあることも明らかになりました。そこで、本年度の例会では積極的な意味でオンライン会場を設定し、ハイブリッド開催とすることで盛会を目指しました。結果的には、参加者増に貢献できたと思われまます。また、コロナ禍でしばらく開催できなかった懇親会も開催し、徐々に通常の学会活動が徐々に戻ってきていると改めて実感しました。

最後に例会にて講演して下さった皆様、ご参加下さった皆様、運営をお手伝いして下さった支部幹事の皆様に感謝申し上げます。

## 現地会場 (211講義室) の様子



## オンライン会場 (Zoom) の様子



## <2023年度 奨励賞受賞者講演 4件>

佐藤 由也 (産業技術総合研究所)

高度な遺伝子発現解析の環境研究・複合微生物研究への応用による革新的な環境技術の創出

手塚 武揚 (北里大学)

希少放線菌の形態分化に関する分子遺伝学的研究

榎尾 俊介 (筑波大学)

芳香族化合物の新たな微生物代謝の発見とバイオマス材料の開発

宮本 哲也 (北里大学) 奨励賞受賞講演

細菌における D-アミノ酸代謝経路の解明と多機能型アミノ酸代謝酵素の発見

## <2023年度 トピックス賞受賞者講演 15件>

手塚 大介 (農研機構)

ゲノム編集による「グルテン」形成オオムギの創出

森 信之介 (慶應義塾大学)

ユキツバキとヤブツバキ：鳥媒花のヤブツバキでは花弁中の *p*-クマロイル基結合型アントシアニンがハチへの視認性を下げる

高橋 裕 (東京大学)

大量培養を志向したヒト小腸オルガノイドの培養技術開発

清水 誠 (お茶の水女子大学)

乳酸菌由来  $\gamma$  リノレン酸代謝産物  $\gamma$ KetoD,  $\gamma$ HYD はヒト小腸オルガノイドの脂質代謝を改善する PPAR $\delta$  リガンドである

高城 博也 (日清食品HD)

おからを活用した *Lipomyces starkeyi* 由来食用代替パーム油の低コスト化および高生産化

星野 翔太郎 (学習院大学)

放線菌におけるヒ素二次代謝経路に関する研究

Yuxun ZHU (東京大学)

Discovery of an unprecedented use of thiamine diphosphate in natural product biosynthesis

鈴木 敏弘 (東京農業大学)

伝統水産発酵食品「くさや」製造に重要な「くさや汁」中の微生物と成分生成との相関

宮下 和樹 (日本大学)

酢酸菌の光活性型転写アクチベーター LOV-HTH の機能解析

脇中 琢良 (ヤマサ醤油)

醤油乳酸菌のバクテリオファージ感受性に関わる菌体外多糖合成遺伝子群の同定

原 克樹 (筑波大学)

海洋細菌の遊泳持久力の多様性とそのメカニズム

吉留 大輔 (東京大学)

窒素固定細菌を用いた大気中窒素を由来とする L-グルタミン酸生産法の確立

渡辺 智 (東京農業大学)

シアノバクテリアにおける自律複製領域の探索とそれを利用した高発現ベクターの構築

中村 彰宏 (長岡技術科学大学)

ドロップレットを用いた超高効率な微生物スクリーニングのためのクマリン系基質の開発

武政 誠 (東京電機大学)

食感分析への深層学習の応用